

2005年1月26日

関係各位

千代田化工建設株式会社 広報室

千代田化工 米国大手電力に技術ライセンス**大型排煙脱硫装置4基一括受注**

- 規制強まる米国市場で本格展開 技術資産活用で収益底上げに寄与 -

千代田化工建設(本社:横浜市 社長:関誠夫)は、2005年1月5日付にて、米国サザン・カンパニー・サービス社(アラバマ州バーミングハム)との間で、ジョージア・パワー社(ジョージア州、アトランタ)の所有するボーエン発電所1~4号機排煙脱硫装置向けにCT-121プロセスの技術ライセンス及び付帯エンジニアリング・サービス供与契約に正式調印しました。

サザン・カンパニー・サービス(SCS)社、ジョージア・パワー社はともに、米国電力会社最大手の一つであるサザン・カンパニー社の傘下であり、当社はCT-121の開発時より同グループと30年来の協力・友好関係を維持してまいりました。1992年より稼働しているジョージア・パワー社イェーツ発電所のCT-121プラントは現在に至るまで順調な運転が行なわれています。今回の契約では、当社はSCS社にCT-121プロセスのライセンス供与と設計へのサポートを行い、SCS社は、その後、調達、建設工事を一貫して担当します。

アトランタの北西50Kmに位置するジョージア・パワー社のボーエン発電所は、同社の主力石炭火力発電所で、1、2号機の出力は各々75万キロワット、3、4号機が各々95万キロワットと、それぞれへのCT-121装置も最大級のものを4基建設することとなります。契約内の当社サービスには、上記4基の設計に加え、後続するグループ内の同クラス(75万キロワット及び95万キロワット)の案件にも適用可能な汎用設計図書の作成にも、協力することも含まれており、同規模の次期案件も念頭において設計が始まっています。

当社の開発したCT-121排煙脱硫プロセスは、亜硫酸ガスの吸収液をスプレーする一般的な方式と異なり、吸収液中に排煙を直接噴出、混合するジェット・バブリング・リアクターという特殊な装置を採用しています。従って、本装置では、高い亜硫酸ガス除去率が実現できるだけでなく、排煙中の煤塵や硫酸ミストの除去率も極めて高く、今後規制が厳しくなると予想される水銀除去を含め、排煙の完全クリーン化が達成されるものと期待されています。CT-121排煙脱硫プロセスは、既に国内外において50基以上の実績を持っており、最近運転を開始した事例では、神戸製鋼所のIPP向け1、2号機(各70万キロワット)や関西電力舞鶴1号機(90万キロワット)などがあります。また、海外においては、需要が増大している米国、中国、欧州への技術ライセンスを展開しており、今回の受注を含めて、ここ数年で合計14基への技術輸出に成功しています。

CT-121の海外営業展開は、通常的设计・調達・建設とは異なり、技術供与というリスクが少なく確実な利益回収が図れるビジネスモデルによるもので、エンジニアリング会社としての一つの営業展開例が示されました。今後も米国市場では、サザン・カンパニーの後続案件に本技術の採用が内定しており、他の米国案件でも本技術の優位性を武器にした受注が期待されています。一方、これら米国案件の受注は、同様なビジネス展開を行なっている欧州市場参入にも拍車を掛けると期待されています。当社は今後も、CT-121排煙脱硫プロセスをはじめとする技術資産を有効に活用し、ライセンス供与でさらなる収益強化を図ります。世界的に強化されつつあるエネルギー関連の環境規制をビジネスチャンスとして捉え、幅広いビジネス展開を目指していきます。

以上

この件に関するお問合せ先： 広報室 村田卓弘/田中亜季

電話 045-506-7538 Fax 045-506-7085

e-mail tamurata@ykh.chiyoda.co.jp